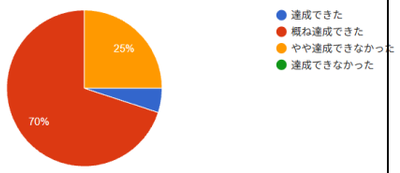
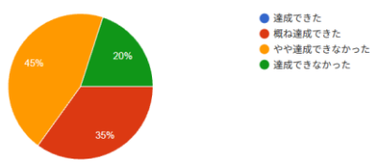
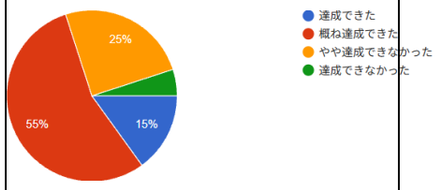
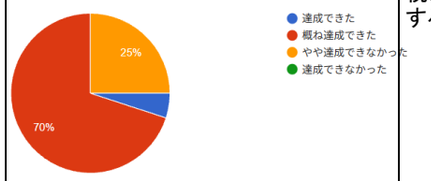
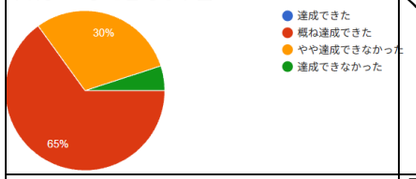
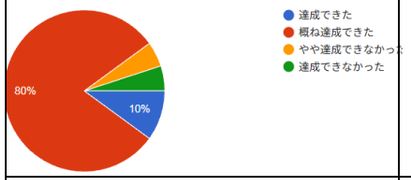
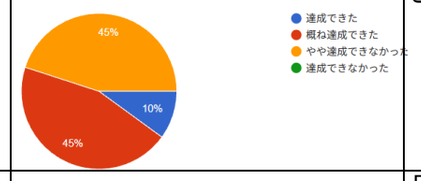
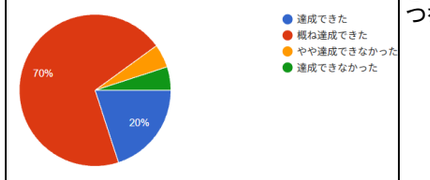
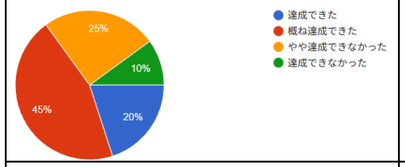
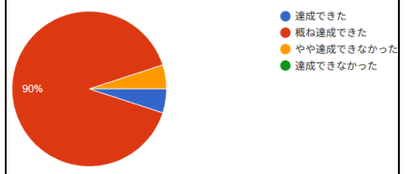
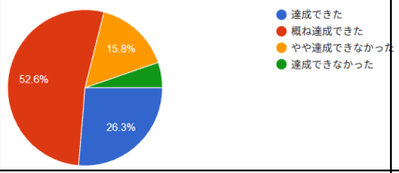
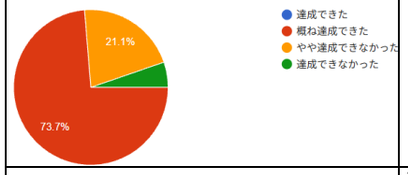
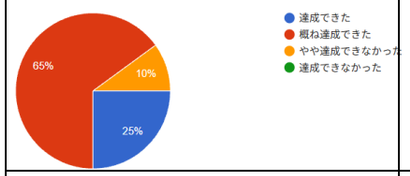
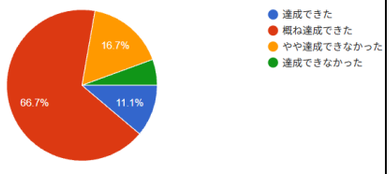
令和８年度　　学校自己評価（中間）まとめ　　上田市立川辺小学校

A：達成できた　B：概ね達成できた　C：やや達成できなかった　D：達成できなかった

学校教育目標	重点目標（中期目標）	今年度の重点	総合評価（中間）
たくましく　かしこい子どもの育成	よく聞き、深く考える子ども（知） ⇒　かんがえよう 思いやりのある子ども（徳） ⇒　つながろう 粘り強く取り組む子ども（体） ⇒　やりぬこう	合い言葉 「さあ、つながろう！！」 互いに認め合える、居心地のよい学校づくり	・ICT や視覚支援の活用で聞き取る姿勢や見通しを持った学習が定着しつつある。 ・昨年度より地域の方や外部の方との関わる活動がやや増えた。 ・時間の遵守や廊下歩行などの決まりの徹底、相手を意識した言葉遣いには課題が残っている。後半は授業の UD 化や個に応じた支援を深めるとともに、時間や言動への指導を継続し、誰もが安心して過ごせる環境づくりを進めたい。

分野		評価項目	評価の観点	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	中間評価
教育活動	学級経営	誰一人取り残すことのない、安心感のある学校づくりを目指して ～「予測困難な時代」を、共にたくましく生き抜く子どもたちを育てるために～」 	どの子に対しても個別最適な学びの方法と学びの場を考え、子どもたちの個性を最大限に引き出し、主体的な学びを支援することができたか。		○			成果 〇学級経営・子ども主体の学びへのアプローチ ・学級全体で取り組む活動を行い、子どもたちの意欲を大切にした。 ・子ども（係など）の「こうしたい！」という意見を取り入れたことで、進んで係活動に取り組んだり、工夫やアイデアを考えたりする姿が見られるようになった。 ・ペアワークやグループワークを取り入れることで、発言がない子のつぶやきや疑問を拾うことにつながった。 ・困っている友に声をかけたり助けたりする姿が多く見られた。 〇個に応じた支援・配慮 ・個々の特性や学び方の違いを踏まえ、学習方法や環境を整えた。 ・支援会議で児童や保護者の思いを聞きながら、最適な学びの場を探った。 ・学習に困難さがある子どもに対し、教師の近くで教えたり、共に書く活動を行ったりした。 ・一斉指導と個に応じた指導の場面を意識して指導を行った。 〇環境づくり・学年間の関わり ・「みんな違って当たり前」を折に触れて伝えた。 ・１年生が入ったことで、上級生が下級生の面倒を見る姿が見られるようになった。 ・自分のペースで決められた時間内に精一杯学習する姿があった。 課題 ・成果はあるものの個別最適な学びについてまだ改善の余地がある。 ・学習を重ねても、なかなか習熟に至らない子どもがいる。 ・「きまりを守る（特に時間）」という目標は達成に至っておらず、周りに流されて行動してしまう子どもの姿も見られる。 ・やさしい言動がある一方で、相手の気持ちを考えない言葉で傷つけてしまうことや、嫌な気持ちにさせてしまう場面があった。 後半に向けて ・習熟に至らない子どもへの支援について、学年や特別支援コーディネーターの先生方等に相談しながら対応を考えていく。 ・授業の UD（ユニバーサルデザイン）化を意識した授業を展開していく。 ・時間について子どもたちが意識づけできるよう、手立てを考えて工夫していく。 ・子どもたちのよい姿を周りに広げ、集団としての雰囲気づくりを行う。 ・相手が嫌な気持ちになる行動に対して、引き続き声がけを行っていく。
	教育課程	地域と連携した教育課程づくり 	地域の素材・人材の参画を図った活動ができたか。			○		成果 〇地域人材の協力・参画 ・樋口種苗より、学習で扱うズッキーニ・ホウセンカや、学校花壇の夏苗の栽培方法・肥料の配合や頻度の指導を受けた。 ・給食指導（５月までの約１ヶ月間）に民生委員の方がボランティアとして協力してくださった。 ・１年生の下校指導においてボランティアを募り、「見守り隊」や保護者の協力を得た。 ・長野大学のボランティアとの関わりを通じ、子どもたちが職員以外の大人との挨拶や礼儀を学ぶ機会となった。 〇外部機関との連携 ・放課後デイサービスと情報共有を行い、多くの大人が関わって子どもを育てる視点を持つことができた。 〇授業での活用 ・国語や算数、調べ学習、MIM の学習、高学年（特に６年生）の授業等でタブレットやデジタル教科書、ロイロノート、Canva を活用した。

	タブレットや ICT 機器の活用 	タブレットや ICT 機器を活用した授業づくりに取り組むことができたか。		○			・当初はログインに時間がかかっていた子どもも、スムーズにログインできるようになった。 ・高学年では、教師・子どもともに ICT を適切に使用する意識が持てている。 **○個に応じた配慮・主体的な学び** ・書くことに苦手意識がある子どもに対し、タイピングで代用する配慮を行った。 ・子どもが主体的に取り組めるよう、ICT を活用したペア・グループ活動を取り入れた。 ・自立活動等において、子どもたちの願いを教材化して授業に位置づけた。 **課題** ・地域に出て学習したい意向はあるが、担任一人で出ることに不安があるため対策の検討が必要である。 ・１年生において、４・５月期に野菜植えなどの経験ができていないため、今後は「植える→草取り→収穫→企画」といった一連の経験を積ませたい。 ・タブレットやアプリの活用については十分に活用できていない面もあるが、子どもの発達に応じて、段階的に活用の幅を広げていきたい。 **○後半に向けて** ・タブレットや ICT 機器を授業で効果的に活用するために研修や情報交換を行う。
かんがえよう	最後まで話を聞く 	発表者の考えをしっかりと聞き取るために、視線を向け、静かに聞くように指導や支援をすることができたか。		○			**成果** ・視覚支援を取り入れることで、子どもたちが集中して話を聞く姿勢を意識できるよう工夫した。 ・発表者の考えを聞き取る意識が高まり、話を聞く姿勢が身についてきた子どもが増加している。 ・３年生の昆虫飼育学習では、家での聞き取りや図書館での調べ学習・発表を通じ、生命の尊さに触れる中で、虫が苦手だった子どもも自主的に世話や観察に取り組む姿勢が見られた。 ・姿勢についての声かけを継続して実施した。
	自分の考えをもち、書く 	わかったこと・気がついたこと・思ったことを書く時間を確保できたか。		○			・考える内容を焦点化して時間を確保し、活動後に簡単な感想を自分の言葉で語る機会を設けた。 ・書くことが苦手な子どもに対しては、話して発信させるなど実態に応じた配慮を行った。
	進んで伝え合う（発表・表現） 	子どもたちが意見を出し合う時間を確保していたか。		○			・ICT の活用により、個々で追究・探求する活動を展開することができた。 ・１時間の授業における「ねらい」と「学習方法」を明確にし、子どもが見通しを持って活動できるようにした。 ・算数を中心に振り返りの時間を毎時間または単元のまとめに位置づけた。その結果、自分の考えを持つ時間の確保やねらいの明確化につながり、教師側も子どもの捉えや課題を把握することができた。 **○後期に向けて** ・書くことに苦手意識がある子どもへの配慮として、意図的に「書く」場面を増やす。 ・友達の考えや表現に触れさせる機会を増やし、書く活動になれさせていく。 ・問題を考え合ったり確認プリント等の習熟活動をしたりすることにより、授業後半のゆとりや振り返り時間を確保できないことがあったため、時間配分の改善を図る。 ・振り返りが「形式的（ただやっているだけ）」にならないよう、意味や方法を子どもと考えていく。また、フィードバックの充実や子どもの書いた内容を次の授業展開へ活かす取組を行う。 ・１年生など文字での記述が難しい段階においては、全員の振り返りを確認できる方法や、発達段階に応じた振り返りの工夫を検討する。
	一人ひとりが追究し、学習したことをふり返る 	一人ひとりが見通しを持って追究ができるように、ねらいを明確にした授業を心がけ、学習のふり返りを終末場面に位置づけることができたか。		○			
つなげよう	心をこめた明るく元気なあいさつ 	日常的な声がけや子ども会活動により、あいさつのよさを自覚させながら、積極的にあいさつをしようとするよう働きかけたか。		○			**成果** ・あいさつについて、学年で合言葉にするなど意識的な声がけを行った。 ・職員から積極的に子どもにあいさつするよう心がけた。 ・「気持ちのよいあいさつとは何か」を子どもと一緒に考える機会を設けた。 ・朝の教室や廊下、授業時など、校内において元気よくあいさつができる子どもが増えてきた。 ・校内だけでなく、校外でも同様に気持ちのよいあいさつができるよう取り組みを続けていく。 ・朝の会の時間等に歌う時間を組み込み、毎日声を合わせて歌う活動を継続した。 ・当番の子どもが選曲する工夫により、様々な楽曲に親しむことができた。 ・朝の時間に「エクササイズ（歌・ダンス・ゲーム等）」を取り入れ、表現やコミュニケーシ

	ひびく歌声 	全校音楽、学年音楽、音楽会で歌う時間を設け、子どもたちが共に声を合わせて歌うよさや楽しさを感じるようにしたか。		○			
	相手の気持ちに近づいた考えや思いやりのある行動 	自分や友達のよさを大切にするよう、日常の様々な事象をもとに、子どもたちに考え行動するよう働きかけたか。		○			
きたえよう	外で元気に体を動かす 	外へ出て元気に体を動かすよう、遊び時間や朝活動などで運動時間を確保しているか。		○			
	食育を通して、給食をバランス良く味わって食べる 	食育を通し、自校給食のよさや感謝を持ち、子どもたちがそれぞれの食べられる量の中でバランス良く味わって食べるよう工夫したか。		○			
	規則正しい生活 	教師も子どもも授業開始や授業の終了時刻などを守るようにしたか。		○			
	共に鍛える 	全校体育、運動会を通して、なかまとの共同の喜びや達成感を得させることができたか。（「自己評価カード」で振り返りを行う。）		○			

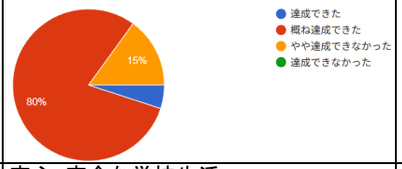
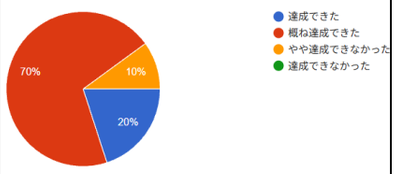
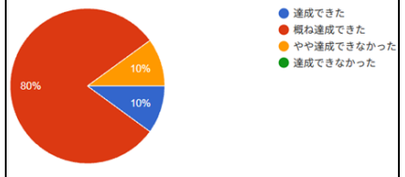
ョンの機会を作った。
・「恥ずかしさ」よりも「楽しさ」を感じられるよう指導し、一人歌いの時間を設けて互いのよさを共有する等の取り組みを行った。
・そっと友達を助ける姿や人が見ていない場面での丁寧な行動など、よい姿をピンポイントで褒めて自覚を促したり、クラスへ紹介して共有したりした。
・トラブルがあったときには、両者の話をしっかり聞き、事実や思いを整理した上で「次はどうすればよかったか」を子ども自身に考えさせる指導を行った。
・友達が体験したトラブル等を学級で共有し、低学年なりに考え合う時間を設けた。相手に思いを寄せたり、困っている友達を助けたりする行動が増えてきている。

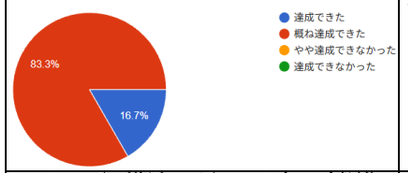
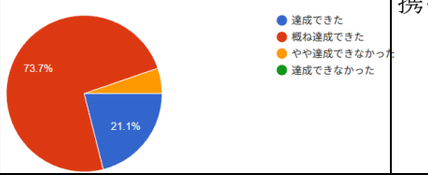
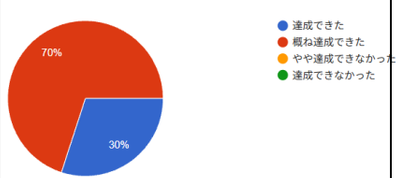
○後期に向けて
子どもによって声の大きさに差が見られるため、教員側からの積極的な声かけを継続する。
・歌や表現活動を通して、自己表現力や友達とのコミュニケーションや互いを認め合う姿勢をさらに育んでいく。・
・言葉遣いの乱れ（呼び捨て等）が見られるため、言葉遣いについて再度子どもと生活を見直していく。また、友達の欠点に目がいきがちな子どもへの関わりを継続する。

課題
・自分の思いが先行してトラブルになることもあるため、日々の指導とともに、問題が起きた際に自分で考え行動できる能力を養う指導や、あらためて思いやりの行動について考える機会を設ける。

成果
・休み時間に子どもたちと一緒にサッカーをするなど、教師も共に体を動かして遊んだ。
・学年で朝の活動の時間にランニングを行い、体を動かす楽しさや続ける楽しさを味わっている様子が見られた。
・給食開始当初は残食が多かったが、次第におかわりをする姿も見られるようになり、全体的に残食の量が減ってきた。
・教師自身が時間を守ることを常に大切にし、しっかり取り組めた。
・常にスモールステップで活動を行い、楽しさを伴った小さな積み重ねの繰り返しができた。
・家庭学習で学習の補充を行いつつ、テスト・宿題・ドリル等の直しの時間を確保し、どこを間違えてどのように考えたらよいかを大切にした。

課題
・暑さのため、外遊びができない期間があった。
・給食の運搬や配膳、片付けに時間がかかりすぎ、落ち着いて食べる時間を確保できず、残食が多くなってしまった。
・朝の時間が伸びたり、活動時間確保のために授業終了時間を過ぎて授業を行ったりしたことがあった
・子どもの中には「時間を守ること」にルーズな部分がまだ見られるため、引き続き時間を守ることの大切さや意味・意義を伝えていく。
・学力に差が出てきているため、一律ではなく個に応じた課題検討が必要。

	基礎学力の定着 	スモールステップ学習やドリル学習の継続など、基礎事項の定着を行っていたか。		○			
生徒指導	安心・安全な学校生活 	学校のきまりやマナーを守って生活するように働きかけたか。		○			成果 ○ 理由や意義に触れた指導・話し合い ・きまりやマナーについて「なぜ守らなければならないのか」を一人一人と話し合い、その都度共に考えることができた。 ・道徳の時間などでその時々に指導を行い、きまりがある理由を説明すると、子どもたちが納得してくれることが多かった。 ・「クラスのみんなが気持ちよく生活できるために」を常に意識し、課題が見られたときは、そこに戻って考えられるようにしてきた。 ・命に関することには厳しく伝え、自分の命を大事にできる人は他人の命も大事にできると常に伝えている。 ○具体的な指導と子どもの様子 ・校内で危険なことをしている時には、その場で注意を行うことができた。 ・クラスや学校のきまりを確認・指導し、ルールが守れていない場合は個人のみならず全体でも確認を行った。 ・廊下歩行について走ることの危険性を訴え、声掛けや呼びかけを行ってきた。声掛けにより、少しずつ歩く人が増えた。 ・機会をとらえて指導を行うことができた。 ・きまりを守り生活できる子どもが多い。 課題 ○子どもの認識と行動の定着 ・きまりを知ってはいるものの、「別に守らなくても大丈夫」と感じている子どもが多い（特に廊下歩行）。 ・高学年として低学年のお手本になりたい思いはあるが、廊下を走ってしまったり、時間を守れなかったりする姿がまだある。 ○教師自身の課題 ・自分自身が学校の決まりを再確認して指導に当たる必要がある。 後期に向けて ○ 指導の継続と安全意識の向上 ・子どもの安全を第一優先とし、日常生活や授業の中でもアンテナを高くして安全に生活できるよう声がけを行う。 ・廊下を走ってしまう子に対しては、継続して声掛けを行う。 ・さらに、安心できる環境を整えていく。 ○全校体制での取り組み ・担任の呼びかけや働きかけだけでなく、全校で取り組む意識を高めていきたい。
	心を込めた掃除 	「もくもくタイム」を通して、心を込めた掃除を行い、学校や教室の環境整備ができたか。		○			成果 ○教師と子どもが共に行う清掃と指導 ・子どもたちと一緒に床を拭いたり窓ガラスを磨いたりしたことで、共に同じ作業に汗を流すことの心地よさを味わった。 ・子どもと一緒に掃除をすることができた。 ・「自分も他の人も気持ちよく生活できるために頑張ろう」と伝えている。 ・掃除に主体的に取り組む良さを互いに感じ合う姿も見られた。 ○清掃方法・手順の定着と子どもの変容 ・１年生は、６年生に教えてもらいながら、一人一人が雑巾をかけたり、バケツを用意したり机を運んだりできるようになった。６年生の力を借りながら掃除のやり方や雑巾のかけ方を覚えることができた。 ・箒の掃き方やぞうきんの使い方、隅から行うことを年度当初に確認したことで、少し上手に掃除をしているように感じる。 ・静かに黙々と掃除する姿が見られた。

								・役割分担をしながら時間いっぱい掃除に取り組むよう声をかけることができた。 ・少ない人数で、時間いっぱいできる限り掃除できた。 **〇工夫した手立て（はじめの会・終わりの会、個別の手立て等）** ・ホワイトボードを使って、掃除のはじめの会と終わりの会を行った。めあてをもって取り組めている。 ・誰がどこを掃除するのか明確にし、一人で進めることが難しい子どもには手順をはっきりさせて取り組むようにした。 ・通常清掃に加え、「ここをきれいにしたい」という思いに寄り添い、掃除用具を準備して継続して取り組んできた。 **課題** **〇取り組み姿勢や「もくもく」の意識** ・「もくもく」の意識がまだうすい。 ・まだ本気の掃除ができていない子どもが一部いる。 ・掃除への取り組みに個人差がある。 ・バケツのところに子どもが集まったときにおしゃべりがあり、トラブルになることがあった。 ・職員による見回りで掃除分担場所に毎回行けなかったことが反省点である。 **後期に向けて** **〇指導の継続と評価・意識化** ・「もくもく」の意識について、２学期は重点的に声掛けをしていく。 ・掃除を時間内に終わらせる意識は高まってきたため、きれいになっているかを確認できるようにしていきたい。 ・一生懸命掃除に取り組む子どもが多いので、気づき清掃も意識してできるように声掛けしていきたい。 ・バケツ周辺でのトラブルについて、指導をして改善できるようにする。 ・掃除への取り組みの個人差に対し、クラス全体でも話し合ったり、気持ちを伝えあったりしていく。
学校運営	保護者との連携	家庭学習の充実 	家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけができたか。		○			**成果** 【家庭学習の方法・量の周知と連携】宿題のやり方を学年だよりや学級懇談会で確認を行った。保護者と常に連絡を取り、子どもとも確認しながら、宿題の量や形式について共有し、適量を出すよう心がけた。 【個別支援・家庭との共有】宿題のやり方が気になる子どもや学校での学習で困難が見られる子どもについて、直接保護者に連絡を取り、宿題やテストの見直しを丁寧に見ていくことや家庭での学習支援をお願いした。家庭学習や参観授業の学習支援など、保護者に見てもらっている。 【ボランティアとの連携・関わり】なかよし学級へボランティアに入っていただき、大変有難かった。 ５年生の米作りや高原学習の火起こし練習の際に、学校ボランティアの方にお世話になった。 【保護者との連絡・情報共有・連携】保護者との連絡を密にすることを心掛け、連絡帳や家庭連絡を通じ子どもの様子や学校生活の様子を共有できている。「つむぐ」の保護者欄に連絡だけでなく子どもの良い姿を時々書いて伝えたところ、保護者に喜ばれた。子どもについて気になることは電話や連絡ノートで情報を共有し、支援会議を行って連携してきた。特に関係する保護者とは連絡を取り合うよう心がけた。必要に応じておたより等で学校の様子を発信したり、保護者からの声に対応したりしている。困ったことは保護者の力を借りる姿勢で連絡を取るよう心がけてきた。 【研修への参加と学びの深化】様々な研修に参加し、新しい知識の獲得や深掘りができている（特コ養成研など）。研修にあたり、「自分だったら」と自らの指導・支援の範囲を考えて臨んだ。初任研や職員会議での研修を受け、教師としての立場の自覚、非違行為防止への意識向上につながった。研修で学んだことを学級づくり・授業づくりの計画や子ども理解に活かしている。職員会の非違行為防止に関する書類を確認することができた。事例から学ぶよう努めた。
		ＰＴＡやボランティアとの連携 	学校はＰＴＡやボランティアとの連携を行っているか。		○			
	研修	子ども理解・非違行為防止研修 	子ども理解・非違行為防止等の研修を行い、自己研鑽に努めたか。	○				

【日々の意識・自戒と子ども理解】日々の授業の振り返りを通して、次の授業につなげることができた。学校に関するニュース・情報を常に読み、自分と重ねて考えるようにした。自分本位な非違行為が教育現場全体の信頼を失うことを肝に銘じて日々生活したいと考えている。子どもとの距離感が近くなりすぎないよう意識している。児童も理解のため、担任と話すことで情報を共有した。

後期に向けて

・お世話になったボランティアの方へ感謝の気持ちを伝える場を設定し、交流を深めていきたい。

・引き続き、以下のことを心がけていく。

こまめな連絡や報告・連絡・相談（ホウレンソウ）をしっかり行っていく。

研修を通して自己研鑽に努める。

児童理解に努め、子どもとの良好な関係づくりをしていく。